

収蔵品展

調布ゆかりの美術

～市川鍔琅・関野準一郎～

令和4年 10月29日^(土) → 12月11日^(日)

前期/10月29日(土)～11月20日(日) 後期/11月23日(水祝)～12月11日(日)
※展示替えのため、11月22日(火)は休室

会場：調布市郷土博物館1階展示室

▼関野準一郎《布多天神(調布八景)》木版 1986年



▲市川鍔琅《人形使》
木彫彩色 制作年不詳



▲市川鍔琅《蝸牛図 白竹掛花筒》鍔筆彫り 制作年不詳

▶関野準一郎《草の実とり》版画本 1976年



◆ギャラリートーク

- 【日時】令和4年11月27日(日)
午後2時～(45分程度)
- 【会場】調布市郷土博物館1階展示室
- 【解説】小野崎 満(調布市郷土博物館顧問)
- 【定員】10人(事前申込制)
- 【申込方法】令和4年11月6日(日)から電話で
調布市郷土博物館(TEL042-481-7656)へ
- 【費用】無料

調布市郷土博物館

入館無料

住所：〒182-0026 東京都調布市小島町3-26-2

開館時間：午前9時～午後4時

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

交通：京王線京王多摩川駅下車徒歩4分 電話042-481-7656

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会期・休館日等に変更が生じる場合があります。最新情報は、調布市HP・郷土博物館Twitterをご確認いただくか、調布市郷土博物館までお問い合わせください。

HP ▶ <https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1176118850606/>

Twitter ▶ https://twitter.com/chofu_museum

ホームページ
QRコード



調布市郷土博物館





収蔵品展

調布ゆかりの美術

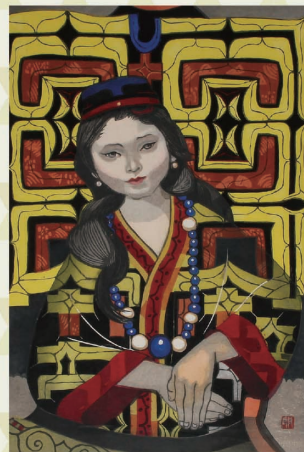


本展では、収蔵品の中から、調布にゆかりある木彫工芸作家の市川鍬琅(1901-1987)と版画家の関野準一郎(1914-1988)の作品を紹介します。

調布生まれの市川鍬琅は、加納鍬哉に師事して若くして奈良に移り、木・竹などの表面に線刻する師譲りの「鍬筆」技法を施した茶道具や木彫床飾りなど、煎茶道に関わる作品を手がけました。青森生まれの関野準一郎は、今純三・恩地孝四郎に師事し、銅版画・木版画をはじめ様々な技法を学び、やがて調布を拠点に多彩な作品を世に送り出しました。

ふたりの彫技の世界をお楽しみください。

【資料保存のため、前期と後期で一部作品の展示替えを行います】



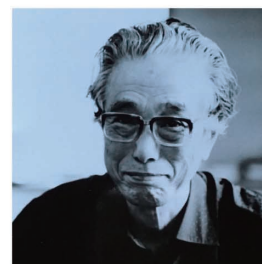
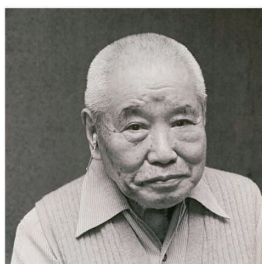
▲市川鍬琅《高士観瀑》
木彫彩色 制作年不詳

市川鍬琅《後高砂》▶
木彫彩色 制作年不詳



▲関野準一郎《ユーカラの女》
木版 1982年 ※前期展示

◀関野準一郎《銀波》
木版 1977年 ※後期展示



TETSURO ICHIKAWA

市川鍬琅

1901-1987

- 1901年 調布町国領(当時)に生まれる
- 1915年 調布尋常高等小学校卒業
加納鍬哉に入門
- 1918年 「鍬良」の雅号をもらう
- 1920年 鍬哉に同行して奈良に転居
- 1923年 雅号を「鍬琅」に改める
- 1925年 師鍬哉の逝去に伴い、
工房「最勝精舎」の経営を継承
- 1929年 大阪三越にて第1回個展開催
- 1935年 紫斑病を発病し聴力を失う
- 1950年 大阪三越にて戦後初の個展開催
- 1986年 大阪高島屋にて「鍬琅の六十年」展開催
- 1987年 1月14日逝去(85歳)

関野準一郎

1914-1988

- 1914年 青森県青森市に生まれる
- 1932年 青森県立中学校卒業
今純三から銅版畫の指導を受ける
- 1935年 《埠頭》で第二部会第一回展入選
- 1938年 日本版畫協会会員となる
- 1939年 上京、恩地孝四郎に師事し、一木会発足
鈴木千久馬油絵研究所に入所
- 1951年 銅版畫研究所開設
- 1957年 調布市に転居
- 1981年 紫綬褒章受章
- 1987年 勲四等旭日小綬章受章
- 1988年 調布市文化功勞賞受賞
4月13日逝去(73歳)

JUNICHIRO SEKINO